通巻 126 号
安曇野市豊科郷土博物館友の会
令和４年１２月１０日発行

「体験と経験を積み重ねて」

友の会副会長　志村　昌之

10 月のタカラさがし部の例会で、火起こし体験を行いました。まずは火打石で挑戦しましたが、なかなかうまくいきません。キャンプでの着火ツールのマグネシウム・ファイヤースターターや学校の理科実験などでもほとんど使われなくなったマッチなど、様々な道具も使いました。苦労したり珍しがったりして、火をつける体験ができました。

今、「体験」という言葉を使いましたが、似た言葉に「経験」があります。以前、小学校の生活科にかかわる研修会で、「体験と経験の違いは？」という問いが出され、考え込んでしまったことがありました。いろいろ調べてみると、「体験」は、実際に行動して体で感じたりすること、あるいは、行動そのもので、「経験」は、見聞きしたり行動したりすること、それにより知識や技能などを得ることといったところでしょうか。体験も経験も、見聞きしたり行動したりすることですが、体験は行動そのものに重点が置かれ、個別的・主観的な意味で使われることが多く、経験は結果として得られるものやことに重点が置かれ、 一般的・客観的な意味で使われているように思います。

タカラさがし部では、小学生とその家族の皆さんが、廃線敷を歩く、川に入り沢ガニを追う、土器や石器や様々な道具に触れる、そして、前述のような火起こしに夢中になるなど、様々な体験をします。これらは、一人一人の興味関心や意味付けによってかかわり方や行動も違い、その結果、それぞれが心で感じたり、知識や技能を得たりして、経験として積み重なっていきます。スタッフも企画立案、実践、評価を通して多くのことを学び、様々なことに活かされていきます。これからも安曇野の地域に根ざし、ひと・もの・ことに触れながら、たくさんの体験と経験を積み重ねていきます。そして、感性や知性を育む場となることを期待したいと思います。

「コロナ下の記憶～記憶を記録する～」

博物館　倉石あつ子

2020 年初頭からの新型コロナ感染拡大は、私たちの暮らしに大きな変化をもたらした。その一番特色的なものが、葬式であろう。「新型コロナ感染拡大」と聞いても、当初はダイアモンドプリンセス号の乗客の問題かと思っていた。しかし、その拡大は異様に早く広範囲であり、この病が一筋縄ではいかないことが、タレント志村けんさんの死によって判明した。家族・親族は入院中はおろか、亡くなっても会うこともできない。死に目に会えない、通常の葬式ができないことがニュースで放送され、それまでタカを括っていた私たちに衝撃を与えた。

現在、2022 年も終わりに近づいているが、この間に親しい人を亡くされた方もいらっしゃると思う。お葬式の告知には「家族のみで行います」という一言がつき、家族以外の参列はお断りします、という意味を含んでいた。初七日・四十九日なども家族のみ。お香典の受け取りさえも鄭重にお断りする旨の一言がついていることが多かった。「新型コロナ感染拡大」を予防するため、という大義名分の前にはそれまでの「義理」もへったくれもなくなってしまった。簡単でいいといえばいいが、人の最後を見送るのにそれでいいのか？という疑問を持つ人も多かったに違いない。

かくいう私も、キョウダイのように過ごしてきた「兄ちゃん」が、親族並みに連絡して、という一言を残して亡くなり、通夜と葬儀に招かれた。本来なら大きなお葬式になるはずが、お寺さんは一僧のみ、招かれた人も死者の家族、キョウダイとその子ども、連れ合いの生家の主人夫婦など本当に死者に近い人々だけ。当然参列したであろう県外在住の甥姪などは出席を見送り、長男家族までが県外在住ということで出席を遠慮しなければならなかった。今までの葬儀では考えられない状況で、結局、30 人ぐらいの出席者でおくることになった。

勿論、飲食も禁止。通夜・葬式後の精進落としも上等のお弁当とお茶をいただいて帰った。「兄ちゃん」は賑やかなこと・話し好きだったから、精進落としの席は楽しみに見守りたかったにちがいない。コロナの感染拡大防止という大義名分に、嫌も応もなく従わざるを得ない。こんな出来事も含めてコロナ禍の暮らしの日々、後世のために是非記録に残しておきたい。

友の会活動

「安曇野にも戦争があった！」

戦時生活部長　臼井　泰彦

戦時生活部は、安曇野市の戦争体験者からの聞き取りや戦時資料の収集をし、それを展覧会で広く市民に知っていただく活動をして、７年目になります。展覧会は、今年で８回目となり、今年度も、８月に市の「平和都市宣言 10 周年記念」を冠して第７回展覧会を穂高交流学習センターみらいで行い、11 月には恒例の絵手紙展と同時開催で８回目の展覧会を行いました。体験者のお話を聞く会も 23 回を数えます。

今年度の２回の展覧会では、この秋 94 歳となった堀金出身の内田辰男さんの戦中・戦後の歩みを４つに区分して展示しました。一つは 14 歳で満蒙開拓青少年義勇軍として旧満州に渡り敗戦を迎えるまで、次に敗戦後の混乱期に中国人の世話になり、翌 1946 年に帰国するまで、さらに堀金の山麓での開拓、そして、30 年にわたる民間レベルの日中友好の活動です。８月には、満蒙開拓平和祈念館や県立歴史館からも多く実物をお借りして展示し、200 名ほどの観覧者がありました。

内田さんは、６年前に戦時生活部発足後最初の戦時体験を聞く会の講師でしたが、内田さんの著書「無、無、無に生きて」もありながら理解が浅く、展示の発想に至りませんでした。しかし、内田さんの戦後の歩みは、堀金での開拓も、30 年に亘る日中友好の活動も、旧満洲での体験が大きく影響しています。そして、各地で何度も自らの体験を語ってきた内田さんを動かすそこには平和への強い思いがありました。

こうした内田さんの歩みと思いを多くの方に知ってもらい、感じてもらいたいと考え、８月と 11 月に展示をするとともにあらためて「お話を聞く会」も開きました。これらの活動を通して、内田さんから学ぶことがまだまだたくさんあることに気付かされました。そして、お話の最後に語った言葉「戦争ほどバカなことはない。絶対、戦争はダメ。お互いが信じ合って生きていけるような世界をつくって」を戦時生活部としても、私たち一人ひとりもしっかり受けとめなくてはと思わされました。

【内田辰男さんのお話を聞く会】

友の会展覧会　11 月 12 日（土）～11 月 27 日（日）

第 19 回絵手紙展

今年度も会員の皆さんの温かな言葉と絵で描く絵手紙を多数展示しました。原則月 2 回の部会講座で制作してきたものです。毎回、皆で和気あいあいと楽しく活動しています。5 月には、“「フッ」と吹いて一息ついたあそび心”と題して、絵の具を垂らして、息を吹きかけてできた色跡の形や色彩を楽しみながら、一言添えた絵手紙を作り、それも展示しました。その他には、瀬戸内寂聴さんの生き方のエッセンスの言葉を選んだ書、テレビ「プレバト」俳句コーナーで活躍している夏井いつきさんの句集から気に入った俳句に絵を添えた作品、また交流コーナーでは、本部会と交流している方々からの絵手紙も展示しました。今回は、松本・岡谷・群馬・埼玉・愛知・岡山・島根・香川・熊本・北海道の仲間から寄せていただきました。これからもお互いに切磋琢磨しながら楽しく絵手紙を作っていきたいと思います。

【5/10 の絵手紙部会】

第 8 回戦時生活展

満蒙開拓青少年義勇軍やシベリア抑留に関わる展示を中心に行い、義勇軍体験者の講演会を 2 回企画しました。内田辰男さん（堀金）の「満蒙開拓の夢から日中友好の架け橋へ」と本間　久さん（穂高）の「満州で4年、シベリアで4年、そして故郷へ」です。アンケートには、「戦中戦後の体験が重なります。豊科高等女学校生徒の生活、興味深い話がたくさんありました。生徒の皆さんの活動は貴重です。語り継ぐ大切さを感じます。同館の皆さんの活動に感謝します。」「私の父もシベリアで抑留となり過酷な労働を強いられたそうです。辛かったことが多かったのかほとんど話をしませんでした。今生きている方が伝えていってもらえる事はよいことだと思います。」等、貴重なご意見をいただきました。戦争体験を語れる方が少なくなってしまいました。ご紹介いただけるとありがたいです。また、戦争関係の資料がありましたらお寄せいただきたいと思います。

【本間久さんのお話を聞く会】

今後の友の会展覧会予定

令和５年１月 14 日（土）～１月 29 日（日）

第 68 回新春書芸展

新春を祝う作品が展示されます。

千野秀濤先生のギャラリートーク

1 月 19 日（木）午後 1 時 30 分から

第 4 回着物リメイク展

タンスに眠る「きもの」を蘇らせた服などが展示されます。

令和4年度　今後の博物館講座・展覧会の予定

こたつ講座予定

	日時	時間	演題	講師	場所	申し込み
1	12 月 17 日（土）	10:30 ~11:30	かわるもの・かわらないもの ～博物館の断捨離～	倉石あつ子	博物館学習室	それぞれ 10 日前の 9:00～博物館へ（第 3 回のみ 9 日前から） ℡ 0263-72-5672
2	12 月 24 日（土）		日本林業と樹木の研究に尽くした 林学博士、白沢保美	松田貴子		
3	1 月 14 日（土）		困った生きもの～市に寄せられた 生物苦情の現場から～	幅　拓哉		
4	1 月 28 日（土）		すばらしき「野良着」	宮本尚子		
5	2 月　4 日（土）		黒沢洞合自然公園はじまり物語 ～中学生が創った公園の話～	窪田尚幸		
6	2 月 18 日（土）		絵地図に江戸時代の安曇野をみる	原　明芳		
7	3 月　4 日（土）		安曇野の気になる生き物たち	那須野雅好		
6	3 月 11 日（土）		住吉庄の開発と領主たち	逸見大悟		
7	3 月 25 日（土）		発掘調査からわかった古代の開発	山下泰永		

令和4年度春季企画展　わ た し の 野 良 着

会期：　令和5年3月 18 日（土）～5月 21 日（日）

野良着の機能性とデザイン性に注目が集まっている現在。戦後から現在にかけての野良着の変遷から、安曇野の人々の衣生活に対する意識と暮らしの変化を明らかにしていきます。ご期待ください。

＜関連イベント＞

◆ワークショップ　①布ぞうりづくり
②綿の手紬コースターづくり　など

◆ギャラリートーク

◆講演会

【野良に出かける人々　地下足袋、洋装、かっぽう着、ユキバカマなど様々な野良着（昭和 30 年頃）】

＊内容・日時など詳細は、２月 22 日（水）発行の広報または企画展チラシにてご確認ください。